

2012年5月の大気大循環と世界の天候

大気大循環

北半球中緯度の500hPa 高度は平年より高いところが多かった。オホーツク海付近でブロッキング高気圧が形成された一方、日本付近はトラフとなった。ジェット気流は北半球規模で分流傾向となり、寒帯前線ジェット気流が明瞭だった。中緯度帯は広く高温偏差が分布し、帯状平均した北半球中高緯度対流圏の気温は平年よりかなり高かった。

熱帯の対流活動は、太平洋西部と太平洋東部（中米付近）、北大西洋西部で平年より活発、北インド洋と太平洋中部で不活発だった。赤道季節内振動(MJO)に伴う対流活発な位相は、上旬に太平洋西部、下旬にはインド洋付近に位置した。対流圏下層の赤道域は、月を通して太平洋中部で東風偏差となった。対流圏上層では、アジアジェットに沿って波列パターンが分布し、中国南部では明瞭な高気圧性循環偏差となった。南方振動指数は -0.1 だった。

世界の天候

2012年5月の世界の月平均気温偏差は $+0.21^{\circ}\text{C}$ で、1891年の統計開始以来、3番目に高い値となった。5月の世界の平均気温は、上昇傾向が続いており、長期的な上昇率は約 $0.67^{\circ}\text{C}/100$ 年である。

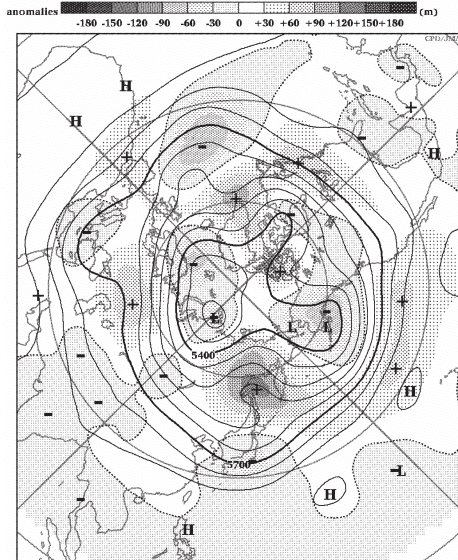
主な異常天候発生地域は次のとおり。

- 黄海周辺では、異常高温・異常少雨となった。
- 米国中部から東部の広い範囲で異常高温、米国中部で異常少雨となった。
- ヨーロッパ南東部では前線や低気圧の影響を受け、異常多雨となった。

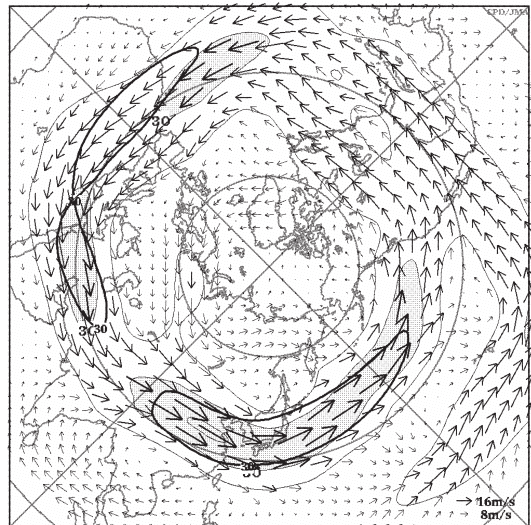
(気象庁 地球環境・海洋部 気候情報課)

※ より詳細な情報については、気象庁ホームページ「気候系監視速報」をご覧ください。

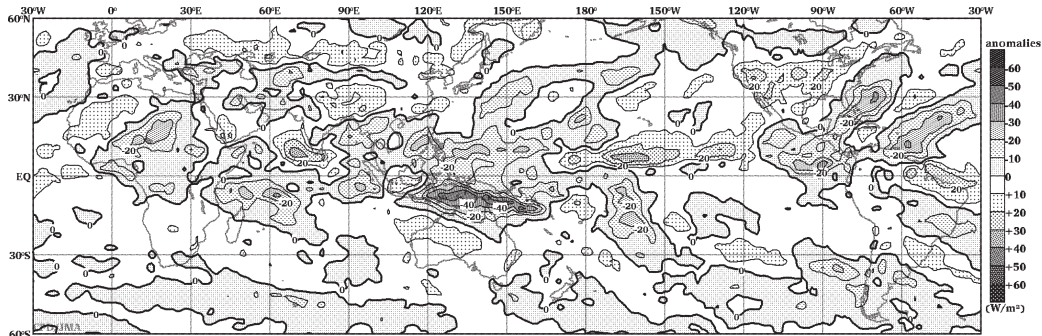
<http://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/diag/sokuho/index.html>



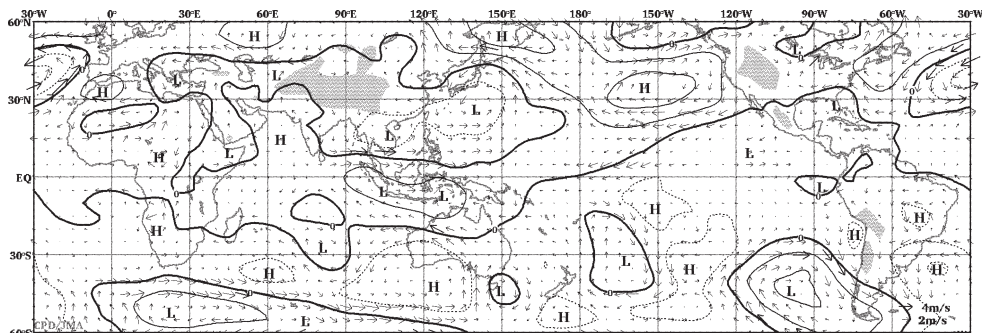
2012年5月の北半球月平均500hPa 高度および年偏差
等値線間隔は60m。陰影は年偏差。年偏差は1981～2010年のデータから作成。



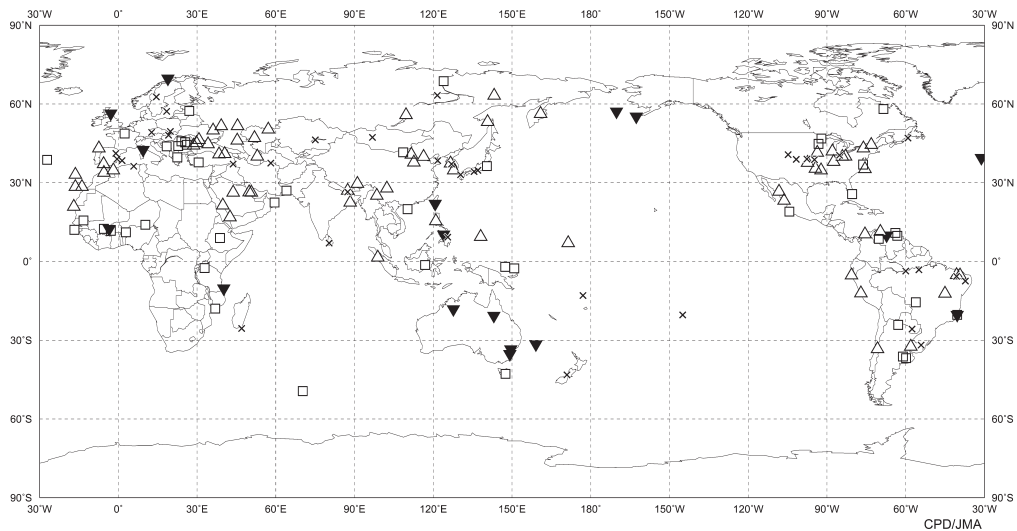
2012年5月の北半球月平均200hPa 風速および風ベクトル
等値線間隔は15m/s。陰影部は30m/s以上。太実線で囲まれた領域は平年の30m/s以上の領域を示す。年偏差は1981～2010年のデータから作成。



2012年5月の月平均外向き長波放射量平年偏差
 等値線間隔は10W/m²で、値が小さいほど対流活動が活発であったと推測される。元データはNOAA。平年値は1981~2010年のデータから作成。



2012年5月の月平均850hPa 流線関数平年偏差および風平年偏差ベクトル
 流線関数の偏差の等値線間隔は $2 \times 10^6 \text{m}^2/\text{s}$ 。平年値は1981~2010年のデータから作成。



2012年5月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨
 異常高温・低温は標準偏差の1.83倍以上、異常多雨・少雨は降水5分位値が6および0。